

令和2年1月31日

松阪市議会

議長 大平 勇 様

報告 文教経済委員会

委員長 深田 龍 印

### 行政視察報告書

標記の件について、下記のとおり行政視察を行いましたので、その内容等を報告します。

#### 記

1. 視察の日程 令和2年1月15日（水）～1月17日（金）
2. 視察先 長野県安曇野市 ／山梨県甲府市 ／愛知県岡崎市
3. 文教経済委員会
4. 参加委員 深田 龍（委員長）、栗谷 建一郎（副委員長）、橘 大介  
松本 一孝、西口 真理、中村 良子、山本 節
5. 報告書作成 栗谷 建一郎、松本 一孝、深田 龍
6. 報告書提出 委員長 深田 龍
7. 視察項目
  - I. 長野県安曇野市 1月15日（水）
    - 1) 公共交通の取組と課題について
  - II. 山梨県甲府市 1月16日（木）
    - 1) 武田氏館跡の整備と活用について
  - III. 愛知県岡崎市 1月17日（金）
    - 1) 岡崎市プログラミング学習について

## I. 長野県安曇野市 1月15日（水） 公共交通の取り組みと課題について

### 1 安曇野市の概要

安曇野市は長野県のほぼ中央に位置しており、松本市に隣接している。松本市とは通勤通学交流が多く、松本市のベッドタウンとしての性質も持ち合わせている。平成17年に豊科町、明科町、穂高町、堀金村、三郷村の5町村が合併して安曇野市が誕生した。

面積 332キロ平方メートル（松本市624キロ平方メートル）

人口 9万7831人（松本市16万3,863人）

老人人口比率 30.5%（松本市28.5%）

歳出決算総額 411億円（松本市670億円）



### 2 安曇野市の鉄道等の交通事情

安曇野市のほぼ中央を南北にJR大糸線が延びているほか、市の東部をJR篠ノ井線が通過している。松本駅から豊科駅まではJR大糸線の普通電車で20分程度である。現在、この二つの鉄道路線を結ぶ交通機関として穂高駅と明科駅を結ぶ定時定路線バスが運行されている。二つの鉄道路線に挟まれるように長野自動車道が建設されており、市内には豊科インターチェンジ及び梓川スマートインターチェンジが存在する。

### 3 合併以前の交通施策とデマンド交通運行への経緯

合併以前は旧5町村それぞれにおいて交通施策が講じられていた。各地域の運行形態は次のとおりである。

|      |                           |
|------|---------------------------|
| 明科地域 | コミュニティバス（市営循環バス）、スクール送迎バス |
| 穂高地域 | 福祉バス、観光周遊バス（夏季）、スクール送迎バス  |
| 堀金地域 | デマンド型乗合タクシー（うららカー）、福祉バス   |
| 豊科地域 | コミュニティバス（ぐるまん）スクール送迎バス    |
| 三郷地域 | 福祉バス、スクール送迎バス             |

各地域の交通施策は旧町村単位で実施されていたため、旧町村どうしを結ぶ交通体系は存在せず、利用者数も伸びなかった。合併を契機に、人々の交流を充実させることが必要となり、従来の交通体系を再構築して新しい交通システムを導入することが重要な課題となった。平成18年7月、国土交通省の公共交通活性化総合プログラム事業を活用し、旧堀金村がデマンド交通をすでに導入しており、これをベースに運行範囲を拡大することになった。

合併からデマンド交通の導入まで2年間を要した。その間アンケート調査、聞き取り調査、ワークショップで住民の意見やニーズの調査を徹底して行った。

このなかで堀金地域ではデマンドバスが便利で拡大して欲しいという意見が多数であったのに対し、他の地域では「バス停が遠い」「本数が少ない」など不満や否定的意見が多く、ドアからドアへのデマンド交通を評価する意見が多かった。また、利用者の主たる目的が通院と買い物であること。大型医療機関、大型の商業施設がある市内中心部へいくニーズが高いこと。高齢者は停留所までの移動が負担であることなどが明らかとなった。

#### 4 安曇野市のデマンド交通システムの概要と特徴

写真 あづみん



運行車両

システムの概要は5つの地域から豊科中心部に乗合エリアを設け、豊科地域はそれ以外への移動交通として運賃を運行し、1乗車300円、往復600円、障がい者と小学生は100円とした。未就学児は無料。運行は平日のみの朝8時から午後4時とし、土日、祝日、および年末年始は運休としている。ワゴン型車両（写真）11台と一般のセダン型車両3台で運転手はタクシー会社のドライバーが担当し、配車管理は社会福祉協議会が担当して7人のスタッフで行っている。運行は1時間に1本で堀金地域だけは30分に一本走らせている。

利用は事前の利用登録が必要（無料）であり、現在人口の27%の方が登録している。出発前の30分までに受付センターに予約すれば乗車できる。午前8時の始発に乗るには前日の予約が必要である。オペレータは乗車希望場所を一筆書きで結ぶ経路を設定し、効率的に移動できるようにしている。

運行上の課題は、乗車希望者が多くなると到着時間が遅くなること、乗車希望者が多いと乗車ができなくなる場合があること、玄関まで行くので道路幅が狭く大きな車両が利用できないことなどがある。

## 5 経費と財政負担

システム導入には4,200万円要した。運行の経費はタクシー事業者に1時間当たり車両借り上げ料が2,000円で年間にして6,860万円。これに加えて利用者1人につき100円が事業者を支払われており、年間約1,000万円が必要となる。このほか事務経費として人件費2,000万円で合計支出額は約1億円となる。

これに対して利用者収入は約2,000万円、国庫補助金1,000万円で合計3,000万円となり、市の負担は約7,000万円となる。

これ以外にスクールバスや福祉関係の交通施策を含めると市の交通施策にかかる経費は年間1億2～3千万円になる。

かなり大きな額で市民から多すぎるという批判がないかと尋ねたら、「批判はなくむしろもっと拡充してほしい」という声があるとのことであった。

## 6 利用状況とその特徴

利用者の80数%が女性、年代では65才以上が約80%、また30%が障がい者となっており交通弱者の移動手段となっている。

利用目的は医療機関に行き、帰りに商業施設で買い物をして帰るという人が多く、通院と買い物に利用されている。

## 7 様々な課題について

このデマンド交通の運行ではタクシーのように目的地まで直行で行けないために時間がかかることや、市内中心部の豊科地域では共通乗合場所で降りるためにその近

くに行けない（これをすると定時に発車ができなくなる）などの課題もあるが、デマンド交通の目的などをよく説明し理解をしてもらっている。

また、定時のコミュニティバスを走らせて欲しいという声も、交通弱者ではない人たちからあがっている。

## 8 公的負担をどう考えるのか

一部の利用者のために市が財政支出をしてよいかという問題については、交通弱者のための交通手段の確保という福祉的な視点からとらえれば、公的な補助によって運行することの根拠はある。また、人は年齢を重ねるにつれ、足腰の衰え、視力の衰え、判断力の低下は避けられない。よって誰しも自動車運転が困難になる。したがってデマンド交通はすべての人の交通手段であり、そのための公費負担は意義のあることである。

## 9 専門家の指導について

デマンド交通を導入するにあたって、デマンド交通の第一人者といわれる福島大学の奥山修司教授に指導をうけ、今も援助をもらっている。

（所感）超高齢化社会を迎えるにあたって公共交通をどう確保するかは喫緊の課題である。安曇野市の交通弱者を対象にしたデマンド交通はこれを解決するうえで大いに参考になるものである。誰しも高齢になり、運転ができなくなるが免許を返納しようにも、交通手段がなくて生活できないという深刻な問題に直面している。市民の健康・福祉・交通安全などの面からもこの問題に本格的に取り組むべきだと考える。

## II. 山梨県甲府市 1月16日（木） 武田氏館跡の整備と活用について

### 1 甲府市の概要

甲府市は山梨県のほぼ中央にあり、人口187,868人、面積は212.47km<sup>2</sup>で市街地は、甲府盆地の中心に位置し、おおむね平坦ではあるが北に高く、南に低く傾斜している。また、市内一円からは、北に八ヶ岳、南に富士山、西に南アルプス連峰が望める。市の沿革としては主に、室町時代の戦国期における武田氏は全国的にも有名であり、武田氏滅亡後は、甲府城築城があり、江戸期は城下町として栄えている。近世では古い建物が戦災で焼失し、戦後は復興の街並みとなっている。2019年には開府500年を迎え、多くの記念事業を実施している。県庁所在地。



### 2 武田氏館跡の整備・活用の計画

#### ・史跡武田氏館跡保存管理計画

武田信虎、信玄、勝頼の三代が住み、山梨を代表する史跡として知られる武田氏館跡を開発から守り、将来に向けて保存していくことを目的に史跡指定区域内における住宅建設等についての許可基準などを定める。

#### ・史跡武田氏館跡整備事業

発掘調査を進めながら史跡武田氏館跡の整備基本構想・基本計画を策定している。

将来的には、戦国大名武田氏の歴史や生活文化を学ぶための本格的な史跡公園を建設していく。

- ・ 史跡武田氏館跡公有地化事業

武田氏館跡の保存・活用を図るため、将来、史跡公園となる地域を対象に土地の買い上げを続けている。すでに公有地化した土地は、一部をスポット公園や史跡散策路「お屋形様の散歩道」として暫定整備し、市民に開放している。

### 3 第2次整備基本計画

- ・ 基本方針

史跡周辺地域の自然環境・景観の保全を開発から守り、将来に向け伝承する場とする。調査研究により、武田氏館跡と旧城下町の解明を進め、館跡、家臣団屋敷、城下町が一体となった構造を示す。土塁、堀等を保護修復し、戦国大名居館の格式・築城技術を最も反映する遺構を復元、構造を顕在化する。武田氏、武田氏以後の遺構を整備し、戦国居館の変遷を提示する。来訪者、市民の憩いの空間を創出するため、利便性のある施設を設置する。武田の郷に相応しい景観形成と、関連文化財とのネットワーク形成を進める。

- ・ 武田氏館跡保存整備委員会

整備に際し学識者、地元・市議会の代表者からなる組織を作り、専門的知識や意見を保護、保存、整備、活用反映させている。

### 4 観光施策との連動性

- ・ こうふ500年記念事業

武田信玄公の生誕から500年という歴史的な節目を迎え、この機を、ふるさと甲府への愛着や郷土愛を育み、未来に向けたまちづくりに繋げていく、またとない好機と捉え、取り組んでいくことを考え、また国内外に効果的かつ戦略的なプロモーションを行い、甲府の知名度の向上を図るとともに、歴史・文化・産業・自然など甲府市の魅力に繋がる地域資源を掘り起こし、産業振興と観光振興の促進による交流人口の増加を図る。

- ・ 民間企業等との協力事業

市観光課では、戦国バサラパネルとスタンプラリーを設置、観光キャンペーン及び広告への協力。県観光プロモーション課との協力事業バイクツーリングキャンペーンの中継地。J R 東日本・J R 東海の企画事業への協賛と割引サービスの提供。

(所感)

全国的に有名な歴史的人物、武田信玄公が本拠地とした甲府市では、この知名度を活かし、郷土愛、教育、観光に力を入れている。特に力を入れているのが、武田氏館跡であり、メインの観光スポットとし、館跡の周辺の整備、住宅建設許可基準、周辺土地の買い上げ等をおこなっており、館跡整備事業では、大手門周辺ゾーン、西曲輪ゾーンなど、多くのゾーン別に事業を展開している。また観光地としての機能を充実させるため、2019年には、開府500年記念事業を開催し、県、民間企業、市民とも連携し、その中でも若年層戦国ファンの取り組みとして、戦国BASARA とコラボしたスタンプラリーなどを開催し、館跡だけでなく市内も観光してもらえるような取り組みも行っているところが印象的である。甲府駅近辺には武田氏以後、築城された甲府城があり、甲府城または駅から武田氏館跡まで徒歩で行くには、かなり距離があるため市内を散策してもらう動線としての課題があり、そのためにガイドマップなど、食、文化、歴史等、種目別に分かりやすいよう作成されている。

また戦災で歴史的建造物が焼失し残っていないので、家臣の館跡、場所の由来などの紹介に力を入れているのが伺える。このようなことから、古い物を保存する意識が高いと感じる。松阪市においては、同じ戦国期に北畠氏があり、歴史的価値のある大河内城跡などの史跡が市内には点在しており、松坂城跡や市内の史跡、文化財等の観光などをめぐる動線などを考え整備し、ガイドマップにもそれらを落とし込む必要があると思える。北畠具教公といえば、戦国ファンの中では、剣豪大名として人気があり、戦国ゲームなどとのリンクも考える事ができる。また色々な、企画を考案しアピールとして活用できると考える。北畠氏に関しては、近隣自治体とも関連するので連携も必要かと思う。甲府市では、歴史教育や郷土愛を育むため学生たちによる発表会などを開催したりしている。このような取り組みは、松阪市も参考にし、取り入れていくべきであると感じた。

### Ⅲ. 愛知県岡崎市 1月17日（金） 岡崎市プログラミング学習について

#### 1 岡崎市の概要

岡崎市は、愛知県の旧三河国のほぼ中央に位置しており、全国的には「八丁味噌」の産地として知られ、豊田市とともに西三河を代表する都市である。中核市、中枢中核都市に指定されている。人口は愛知県において豊田市に次いで3番目である。

面積387.20キロ平方メートル（松阪市624キロ平方メートル）

人口388万174人（松阪市16万3,863人）

- 大事なことは「先生が説明し過ぎないこと・子どもたちにやってもらうこと」  
実機でプログラミング体験、小型ロボット「ボルト」を使用



▲小型ロボット「ボルト」

- 3年前から学校情報係を設置（4名）  
教育委員会総務課の方が予算の折衝をしやすい。ネットワークやインフラ整備に直接働きかけられる。学校指導係や市長部局の情報政策課との連携もしやすい。今後はGIGAスクールという国の事業に取り組んでいく。
- “日常化された授業のなかで「プログラミング教育」を盛り込んでいけるか？  
が大事”  
授業の主役は国語、算数、理科などの教科、教える手法に「プログラミング教育」を取り入れている。現状、24単元に取り入れている。  
本来は各小学校の校長にカリキュラムを決める裁量があるため、教育委員会からは半分必修、残り半分を推奨という形で緩やかにソフトに進められるようにしている。
- 教員への研修について  
大きく3つの研修を実施している。  
1 教育主任や情報主任対象の集合研修

2 情報指導員（指導教諭）による研究授業

3 先進実施校による公開授業の参観

小型ロボットを巡回で貸し出し ➡ 令和2年度には全校に配備できそうな見通しもある。

PC 授業をやめてもいいのではないかという意見もあるが維持していく方向性

#### 【質疑応答】

**Q：民間のプログラミング塾に通っている子どもとの差が出るのではないか。**

A：素地づくりを行っていくのが学校の授業。発展的な学習を学びたい子どもたちはそういう教室を活用してもらえればと思う。塾に通ってできる子どもは同級生を教える側に回ってもらうこともある。簡単なプログラミングもあれば、複雑なプログラミングもある。複雑なものをできる子どもにはそれをクラスで共有してもらっている。

**Q：プログラミングと英語との関係性。複雑なプログラミングになると英語が必要になる。その補完はされているのか？**

A：プログラミング言語を書いていくレベルまでは求めないと文科省から聞いている。高度なプログラミングをブロック方式にして実施している現状である。中学校の技術科あたりで対応すればよいかなと考える。

**Q：専門的なひとの採用まで考えているのか？**

A：授業は担任の先生に学び取ってもらい指導してもらう。ICT 支援員を委託契約で6名ほど雇っていて学校側の依頼によって派遣している。商業高校の生徒が教えに来てくれたり、地域の人材を活用することもある。

**Q：ブロック方式を採用した経緯は？**

A：スクラッチ 2.0 というソフトは世界的なスタンダードで無料。標準的なものだという認識。

**Q：タブレットの使用制限について**

A：学校で使うものについてはフィルタリングがかかっている。

**Q：授業の中身についていけない子どもたちへのサポートは？**

A：やっているうちに、子どもたちは教え合っている状況が現場にある。

## Q：体系の作り方

A：情報教育推進委員会（若手で有望な教諭12名）を設置して、1年ほどかけて作ってきた。12名の教諭からプログラミング単元に合う教科をピックアップしてもらった。その結果今の1・2年生3コマ、3・4年生4コマ、5・6年生5コマとなった。今後は24単元は維持しながら、教科書が変わるため作り直すことが必要と考える。入れ替えは検討している。単元数は増やしていくことができれば増やしていく。

検定のようなものをつくって数値的に測っていく必要はあると考える。

## （所感）

全国でもプログラミング教育を先行して行っている岡崎市で、先行しているポイントとそのために行った活動などの経緯を学んだ。松阪市と比べ、市内全小学校ですでにプログラミング教育を体系的に実施されている点は先進的な取り組みであった。またそのために1年かけて現場の若い教諭12名を集めて「情報教育推進委員会」を設置されたことは松阪市にとっても必要なことだと考える。この委員会が中心となって、プログラミングの技術ではなく、論理的思考を育むために教科の中に、どう盛り込んでいくのかを試行錯誤されたご努力が体系的なものとなった。そして、その委員会が今後のプログラミング教育の発展性も担う。また、視察の冒頭から最後まで担当課の方が発せられた言葉“いかに教諭側がやらないか、子どもたちにやってもらうことが大事だ”ということが子どもたちの主体的な取り組み、つまり“考える力”を育んでいく大事な姿勢なのだと考える。

